

繁忙期の異なる農作業や飲食店スタッフなどの仕事を組み合わせて、ひとりひとりに合った働き方を確保

【経緯等】

武雄マルチワーク協同組合の代表理事を務める豊田秀敏氏は米、麦、キャベツなどを生産する農業法人の経営者でもある。法人の農業経営においては農地の集約や集積により規模拡大を進める中で、課題として、従業員の高齢化等による人材・労働力の確保があり、一方で農業部門だけで年間を通じた雇用も困難な状態であった。

このような中、総務省の「特定地域づくり事業協同組合制度」を知り、農業（畜産を含む。）部門と飲食店部門の事業者で組織する「武雄マルチワーク協同組合」を令和5年1月に設立した。

【取組内容等】

組合員は、豊田氏が経営する農業法人を含め農業部門が4事業者（うち畜産が1事業者）、飲食店が1事業者の計5事業者である。

従業員は5名で内訳は特定技能外国人の男性が2名、日本人は全員女性である。年齢層が30歳代から70歳代まで幅広く、高齢者には軽作業や飲食店中心のシフトを組むなど、配慮をしながら運営している。

【今後の事業展開】

豊田代表によれば、「特定地域づくり事業協同組合制度」は一定の給与水準を確保できるなどのメリットがある一方で、「派遣」という言葉が敬遠されがちであることなどから、安定した雇用の確保が課題であるとのこと。

現在、あらゆる業界で人材が不足し、より賃金の高い業種へと人材が流出している中、豊田代表自身もIターンで県外から移住し現在に至っており、豊田代表は、「地域を活性化させていくためには、移住者などを含めた若い人材があと数名は欲しい。」と語られた。

武雄マルチワーク協同組合の組合員（事業者）の現場



ハンドコさん（左）
豊田代表（右）

職員：ハンドコさん

インドネシア出身のハンドコさんは、東京の日本語学校を卒業後、武雄市に移住して半年になるそうです。

取材当日は、秋晴れの青空に真っ赤な彼岸花が映える中、水田で、WCS（ホールクロップサイレージ：粗飼料）の水田の畔の草刈をされていました。ハンドコさんは、「ちんげんさいの収穫作業などもやりますよ。」と、流暢な日本語でにこやかに答えていただきました。



中武さん

職員：中武さん

中武さんは結婚を機に武雄市に移住し、子育て仲間からの紹介を通じて、本組合で働くことを志望したそうです。

取材当日は、ちんげんさいの選別や播種作業などに従事されていましたが、きゅうり農家や牧場でも従事することです。「しっぽの動きでわかる牛の生態など、仕事を通じて体験したことを子供たちに話して聞かせると、とっても喜ばれます。」と語られていました。